

## 企画事業 「青少年体験活動総合プラン」

事業名	自然体験活動指導者養成研修 自然体験活動全体指導者養成研修Ⅰ・Ⅱ	
実施期	研修Ⅰ：平成22年10月 9日（土）～11日（月） 研修Ⅱ：平成22年11月21日（日）～23日（火）	
担当者	企画指導専門職 相澤 敬二	

### I 事業の趣旨

青少年の社会性や豊かな人間関係の育成を図る上で重要な自然体験活動などの機会が減少しており、次代を担う青少年の育成を図ることが喫緊の課題である。

そこで、農産漁村における農業体験や自然に親しむ体験活動等の教育的教育効果を高めるとともに、青少年が安心・安全に体験活動を実施できるようにするために、青少年の体験活動の指導や小学校等が実施する体験活動に対して助言・調整を行う指導者を養成する。

### II 事業の概要

#### 1 事業の目的

青少年の体験活動を指導したり小学校等が実施する体験活動に対して助言・調整を行う「全体指導者」を養成することを目的とする。

今回、補助指導者養成講習受講者の中で、全体指導者になることを希望する者に対して、2泊3日の日程で実施した。

#### 2 参加対象及び募集人員

青少年教育関係者、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心があり、自然体験活動指導者として登録する意志のある者（18才以上）で、補助指導者養成研修を受講済みの者の中から各回20名募集した。

#### 3 参加状況

- (1) 研修Ⅰ（10月9日～10月11日）  
男性9名、女性12名 合計21名  
（社会人8名、大学生13名）
- (2) 研修Ⅱ（11月21日～11月23日）  
男性19名、女性8名 合計27名  
（社会人14名、大学生27名）

#### 4 実施上の留意事項

- (1) 補助指導者養成研修を事前に受けた者のみ、本研修を受講できる。
- (2) 海洋型のプログラムを多く取り入れた研修Ⅰ、山型のプログラムを多く取り入れた研修Ⅱを実施し、選択の幅を広げた。
- (3) 野外活動プログラムが多いので、安全面の配

慮を十分に行った。

- (4) 荒天時プログラムの綿密な計画と講師陣の配置を行った。

#### 5 活動のようす

研修Ⅰ（10月9日～10月11日）  
今年度1回目の全体指導者研修が行われた。



《安全管理 講義》



《安全管理 実習》



《満天の星の下、星座観察の技術を学ぼう！》



《テント設営》



《渡嘉敷島の森を歩いて海へ》



《自然体験活動の技術：炊飯活動》



《磯を歩きながら指導法を学べ！》



《プログラムの企画立案》



《スノーケリングの技術を学べ！》



《スーパーフロートでサンゴ・海洋生物の観察》



《研修Ⅰの参加者・スタッフ》

研修Ⅱ（11月21日～23日）  
2回目の全体指導者研修が行われた。



《やんばるの森を歩いて指導法を学べ》



《野外炊飯の基礎》



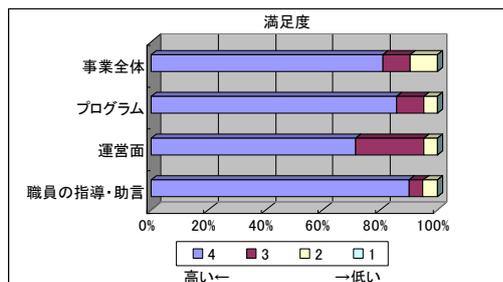
《クラフトづくり「竹とんぼ」》



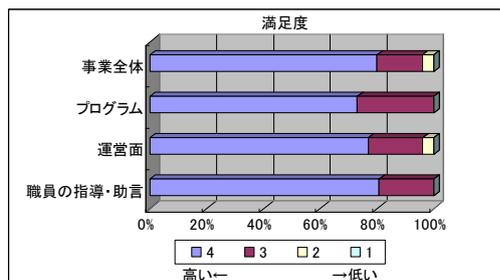
《研修Ⅱの参加者・スタッフ》

## 6 アンケート結果

### (1) 研修Ⅰ（10月 9日～10月11日）



### (2) 研修Ⅱ（11月21日～11月23日）



### (3) 参加者の声

- とても内容があり、充実した研修だった。
- 企画立案プログラムで、グループでの話し合い活動は大変良かった。また、立案する難しさについて知ることができ、学びの多い研修だった。
- 運営するにあたり、安全面にすごく気を遣っていただき安心して研修を受けられた。
- 分かりやすい説明や指導が多かったのが良かった。
- 沢山のひと話す機会があり、自然を通して仲間を沢山つくれた。
- 研修プログラムは、基礎的な内容から応用的な内容まで組み込まれており良かった。
- 体験プログラムが多く、指導方法の参考になった。
- 登山（山歩き）時の連絡体制で、安心して活動できた。
- 2泊3日の研修は、参加しやすかった。
- ▲一部の学生の受講態度に疑問を持った。学生に対しては、もっと注意をすべきだった。
- ▲プログラムの内容が多く、ハードな研修会だった。もう少しゆとりのある時間設定がよい。
- ▲指導者養成なので、事前準備のことや事後の片付け方法等についてもっと詳しく学びたい。指導者を育てるという面から、更に踏み込んだ説明が欲しい。
- ▲今回の活動場所の海の生物、草花、山の生き物や星座観察の資料が欲しかった。
- ▲星座観察（指導技術）では、資料で学習した後に実際現場で星空を見ると、更に理解しやすい。
- ▲模擬授業のように実際に指導場面を設定して指導の経験を積ませるような研修内容があるといい。
- ▲野外炊飯時（ダッチオーブン）の時間の使い方に工夫欲しい。

## Ⅲ 成果と課題

### 1 事業の成果

- (1) 自然体験活動に必要な知識・技能について、基本的な内容からより踏み込んだ内容を習得できた。
- (2) 補助指導者養成研修を事前に受講することで全体指導者研修を2泊3日にすることができ、研修へ参加しやすくなったことで、受講者が増えた。
- (3) 自然体験活動に興味関心のある方々の情報交換の場となり指導者間の連携のきっかけとなった。
- (4) 2回目の研修会場を本島内の県立青少年施設（名護青少年の家）としたことで、他施設職員との連携につながった。

### 2 今後の課題

- (1) 指導者養成カリキュラムを補助指導者養成と全体指導者養成で分けたが、全体指導者養成研修のカリキュラム時数が多く、全体指導者研修では時間的なゆとりがなかった。補助指導者養成研修のカリキュラム時数を増やして全体指導者養成研修の負担を減らす必要がある。
- (2) 一部大学生の受講態度が悪く、社会人の参加者から不満の声があった。学生に対しては、研修前に意識付けをするなどの対策が必要である。
- (3) 受講者は増えたが、今後は、これら指導者の積極的な活用や更なるスキルアップの場を提供する必要がある。

## Ⅳ おわりに

今回、全体指導者養成研修を2泊3日で実施したことで参加者が増え、自然体験活動指導者養成が概ね目標達成できたと考える。

二度の研修で出てきた課題や受講者の感想等を参考にしながら、より充実した内容の研修会を実施し、有能な指導者を更に育成し、小学校等で実施される体験活動等の教育効果を高めていきたい。